

第3回宇治市観光振興計画策定委員会 議事録

日時 令和4年10月19日(水) 15時00分～17時00分

場所 宇治市産業会館1階 多目的ホール

出席者

委員長 坂上 英彦

委員 藤原 直樹

” 中村 藤吉

” 山仲 修矢

” 脇 博一

” 堀井 長太郎

” 後藤 英之

” 荒木 将旭

” 佐脇 至

” 酒井 勇治

” 奥野 美奈子

” 西村 嘉高

オブザーバー 長谷川 理生也

” 多田 重光

” 松田 敏幸

事務局

産業観光部部長 脇坂 英昭

産業観光部副部長 前田 聖子

産業観光部観光振興課課長 木田 陽子

産業観光部観光振興課副課長 山田 裕之

観光振興課観光企画係係長 辰己 義人

観光振興課観光企画係主任 大原 豪

観光振興課観光企画係主任 西井 利治

資料

- ・ 第3回宇治市観光振興計画策定委員会 次第
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会 委員名簿
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会 設置要項
- ・ 宇治市観光振興計画策定委員会の会議の公開に関する要項
- ・ 第2回策定委員会（9/7）での主な意見 資料1
- ・ ワーキンググループでの主な意見 資料2
- ・ 宇治市観光振興計画策定庁内連絡会議設置要項 資料3
- ・ R4宇治市観光動向調査（確定値） 資料4
- ・ 第2期宇治市観光振興計画について 資料5
- ・ 今後のスケジュール 資料6

1. 開会

2. 議事

- (1) 第2回策定委員会での主な意見について 資料1
- (2) ワーキンググループでの主な意見について 資料2
- (3) 宇治市観光振興計画策定庁内連絡会議の報告について 資料3
- (4) R4宇治市観光動向調査(確定値)の報告について 資料4

事務局：

事務局より資料1 資料2 資料3 資料4について説明。

委員：

資料3について、前回委員会で庁内連絡会議の詳細について提示いただくよう意見したが、会議の設置要項ではなく、行政のプロの観点から見て、実現性の高い観光計画にするためにどういった議論をされているのかを知りたかった。

委員長：

庁内連絡会議の内容について報告が可能であれば、説明いただきたい。

事務局：

庁内連絡会議はこれまでに一度開催している。そこでは第2期観光振興計画の策定スケジュールについて情報共有をした。基本理念やコンセプトについては本委員会の意見を取りまとめた上で、庁内連携会議での協議を予定している。

事務局：

前期アクションプラン策定の段階となったときに、現状を踏まえた上での具体的な施策内容について協議を予定している。

事務局：

資料4の表中の「現状速報値」は「現状確定値」の誤り。お詫び申し上げます。

京都市へ観光した人が宇治へ来る割合については現在別途調査中であり、今後改めて確定値を報告する。

- (5) 第2期宇治市観光振興計画について

事務局：

事務局より資料5について説明。(1～2ページ)

委員：

資料5の2ページの【前期アクションプランのコンセプト(案)】に「コロナを乗り越え新たな時代に輝く観光・宇治のまちづくり」とあるが、「乗り越え」という表現はこれでもいいものか。

委員：

「コロナを乗り越え」は今のタイミングでは適切だと思うが、前期アクションプランの3年間で風化してしまうのではないかという懸念もある。

委員長：

「コロナを乗り越え」と「新たな時代」は同じ意味を指しているように思うので、「コロナを乗り越え」は削除してもよいのでは。

コンセプトの文章としても長すぎるので、できるだけ端的にする方がよい。

委員：

「コロナを乗り越え」はなくてもよいと思う。

基本理念の「宇治のブランド力を未来へ織りなす」でも問題はないが、「織り成す」という表現が個人的には新たなものを創り出していくようなイメージのように感じるので、例えば、「未来へ紡ぐ」の方が既存のものをつないでいくイメージが表現できるのではないか。

委員：

「織り成す」は繊維産業を連想させるので、あまり宇治らしくないように思う。

委員長：

お茶に関する言葉で表現してはどうか。基本理念に宇治らしい表現が入るとよいと思う。

委員：

資料5の1ページの【基本理念の考え方】の2段落目に「それぞれの資源は魅力あふれるものであり、さらにそのストーリー性をもってつなぐことで共感を生み、新たな価値が生まれる」とあり、大変よいことだと思う。

その次の段落で「その新たな価値を～」とあるが、宇治の従来価値を知ってもらい、さらにプラスで新たな価値も生まれるという表現の方がよいのではないか。

委員長：

私もそのように感じる。

委員：

資料5の2ページの[前期アクションプラン期間中に予定されているトピックス]の令和5年度に「JR奈良線複線化完了」とあるが、京都府では「JR奈良線第2期複線化事業」とされているので表記を合わせた方がよいのではないか。

委員長：

正確な文言表記をお願いします。

委員：

コンセプトの「コロナを乗り越え」は削除した方がよいと思う。コロナのせいにはばかりしてはいけない。

基本理念も長いように感じる。「宇治のブランド力」は一般に認知されているのか。「宇治ブランド」にこだわるのではなく、宇治全体を含める意味で「宇治」だけでもよいのではないか。

委員：

前期アクションプラン期間中の令和6年度に「響け！ユーフォニアム」の第3期シリーズの放送が決定している。京阪電鉄もヘッドマークやラッピング電車など、大変力を入れており、観光コンテンツとしても非常に重要だと思うので、トピックスに入れてもよいのではないか。

委員長：

若い人たちにとって聖地巡礼は非常に有効である。

個人的には前期アクションプランのコンセプトの文末が「宇治のまちづくり」だと、まちづくりに特化した政策に見えてしまうので、「宇治の観光まちづくり」の方がよいと思う。

また、「新たな時代」も「新時代」とすれば端的になるのでは。

委員：

資料5の2ページの[前期アクションプラン期間中に予定されているトピックス]には、もっと先のゴールとなるトピックスについて取り上げてもよいのではないか。天ヶ瀬のまちづくりなどは新たな観光資源として重要である。

委員長：

令和8年度以降でも計画が明らかなトピックスについては掲載してはどうか。記載方法については事務局で検討をお願いします。

事務局より資料5の説明。(3～9ページ)

委員：

施策の展開の中に「宇治にしかない」という言葉がたくさんあり非常によいと思う。

資料5の6ページの2-2に記載されている、「覆下栽培」は宇治ならではの茶園風景なので、もっと展開や強調をするべきではないか。

他の項目についても宇治ならではのということを大事にしながら進めてほしい。

委員：

資料5の4ページに「基本方針2 宇治から広がる～広域交流の実現～」とあるが、京都市内に近い立地は宇治にとって大きな強みである。京都観光の始点は80%が京都駅であり、京都～宇治間には鉄道が3本も通っている。また、移動時間も30分以内と利便性が非常に高い。この強みはぜひとも方針に入れ込んで、京都市からの誘客につなげたい。

また、宇治は奈良へも鉄道でつながっている。京都と奈良の間の歴史都市としてアピールできればよいと思う。

大阪・関西万博の会場から最も近いのは実は奈良である。その途中にある宇治は大変好立地となる。

委員長：

大阪・関西万博を見据えて、海外からの観光客を京阪神の主要エリアから宇治へ誘客することが重要となってくる。前期アクションプラン期間中にしっかりと取り組むべきである。

委員：

宇治には観光資源やコンテンツは既に十分あるので、今後は発信や活用の方法が重要となってくる。

資料5の8ページの「4 おもてなしのまちづくり」といった、観光客がストレスなく宇治市内およびその周辺地域を周遊観光していただくための環境整備が重要と考える。

公共交通機関を利用して来られた観光客にはレンタサイクルやeバイクの活用、また、活用のためにはハード面の整備も課題となる。

さらに、インバウンド客へのキャッシュレス対応も重要である。いかにストレスなく消費していただけるかということも記載していただけたらと思う。

委員長：

資料5の5ページ以降の各施策の展開ごとに具体的なアクションプランの例などは記載する予定なのか。

事務局：

具体的な取組を記載する予定である。それについては次回委員会で提示予定。

委員：

資料5の4ページの「基本方針3 宇治でもてなす ～おもてなし力の向上～」について、宇治でのおもてなしとは、景観や寺社仏閣、お茶の香りや味など、全て包括したおもてなしと捉えてもよいと思う。

その中で、資料5の8ページにある「4 おもてなしのまちづくり」で「宇治市民が宇治を知り、好きになり、誇りに思うことで、おもてなしの心をもって観光客に接する」とあるが、なかなかむずかしいことではないかと思う。観光を優先した整備がかえって住民の迷惑となることもある。観光公害に発展しないよう観光客誘致と地域住民の生活とのバランスを上手くとっていかなければならない。

事務局：

コロナ禍の影響で車での観光が多く見られ、今春も非常に混雑していた。

行政でどういった対策ができるか日々模索をしているが、根本的に交通の許容量が足りていない。

当面の対策として、例えば、市役所に臨時駐車場を設置するなど、車が中宇治エリアに入るまでの対策が必要と考えている。

委員長：

日常的に混雑しない状況にしていくことも望まれるが、観光にはピークがあることを市民に理解していただき、事前に了承を取っていくことも重要である。

過度な道路や駐車場の整備を進めることで、本来のまちの良さがなくなってしまうと本末転倒である。

委員：

オーバーツーリズムへの対策も記載していった方がよいと思う。

資料5の7ページに「3 - 4 外国人観光客の誘客強化」とあるが、水際対策が緩和されたことで今後増加していく外国人観光客への対応も記載するべきではないか。

全体的な文言の表現について（文末の「推進」や「強化」など）はこれでよいと思う。

委員：

午前中に京都市内に寄った際に、外国人の方が着物姿で散策されている姿を見かけて、だんだん外国人観光客が戻ってきたんだなと感じた。

萬福寺では今後、中国からの集客を見込めると予想している。中国はゼロコロナ政策によりなかなか渡航できない状況だが、緩和されたら一気に観光客を押し寄せてくると思うので、喫煙やゴミなどの観光マナーへの対策についても記載した方がよい。

京都駅から宇治へのアクセスについて、快速だと黄檗駅を通過してしまうので、なんとか停車してもらえないか。

また、黄檗から宇治市内への散策ルートも用意した方がよいのではないかな。

委員：

資料5の7ページに「3 - 1 市内周遊性の向上」とあるが、任天堂資料館や天ヶ瀬ダムは宇治市内の中心地からは離れているので、効率よく快適に周遊できるような仕掛けが必要。他都市ではグリーンスローモビリティの研究も盛んで、和束町では茶畑で実践されている。こういった研究にも早期に着手していくべきではないか。

まずは実験的にボランティアガイドのガイドを聞きながら小さなカートで周遊できるツアーを企画し、平等院を起点に天ヶ瀬ダムや三室戸寺などに行くルートをいくつか考案してはどうか。

委員：

公共交通の利用促進についても施策の中に入れてほしい。観光スポットをつなぐ公共交通があれば、移動の利便性も上がり、交通渋滞の解消も望めると思う。観光客だけでなく市民や市外からの通勤・通学でも利用できるようにすれば、観光振興を起点とした地域発展にもつながるのではないかな。観光地を目指すだけでなく、さらに上の目的も意識して長期的に取り組むことが重要。

ワーケーションも具体的施策の中に入れてはどうか。

資料5の9ページの「5 - 1 戦略的な情報発信」で「必要な時に、必要な人へ、必要な情報を届けられるよう」とあるが、供給側だけでなく需要側への施策も必要ではないかな。マーケティングについての施策も入れた方がよいと思う。

委員長：

観光は目的ではなく、地域が豊かになるためのあくまで手段であると理解している。

観光客のための観光ではなく、自分たちのための観光といった考え方を計画の冒頭あたりで共有された方がよいと思う。

委員：

3点、意見を申し上げる。

1点目。前期アクションプランの期間は令和5年度から令和7年度に設定されている。おそらく令和7年にはオーバーツーリズムが再来している可能性もある。量より質を重視し

たプレミアム路線の方向性も考えられるのではないかと。現状、すでに多くの国から訪日されている。

2点目。観光を地域産業と結びつけていくという意見には非常に賛成。工場見学を足掛かりとした観光振興と地場産業発展を福井県鯖江市や新潟県燕三条市では実践されており、本日付の日経新聞にも掲載されていた。

3点目。市民参加ができる取組も重要である。フィルムコミッションでは海外映画のロケ地に日本の地方都市を選んでもらい、地元の人がシーンエキストラとして参加することで改めて地域のよさを知ることができる。観光事業を通じて、市民に宇治の良さを伝えていくことも狙いとして持っておくと良いと思う。

以上の内容をアクションプランに入れ込んではどうか。

委員：

マーケティングを活用した計画策定や宇治を中心に京都市内、山城地域、奈良といった周辺地域との周遊性やネットワークづくりといった意見には賛成である。

マーケティングは調査から得られた地域の実態やニーズについての分析や編集が非常に重要となる。

世界を意識しながら発信するためには、マーケティングをしっかりと活用し、未来を見据えながら取り組むべきである。

委員長：

観光の動向を前段に入れた上で、3,4年後の観光や宇治のまちについてのビジョンを明確に示した方がよいのではないかと。

宇治にしかないものを求めて来る人がおそらくコアターゲットになってくると思うので、そういった方々にいかに満足していただける付加価値をつけていくか。MICEに近いイメージとなるのではないかと。

委員：

マーケティングについて、第2期観光振興計画でも引き続きKPIの検証や経年経過を図る意味で観光満足度調査を実施されていると思うが、市民の観光に対するシビックプライドと観光公害とのバランスをとっていく必要がある。混雑していても地元の魅力を感じてもらえることに誇りを感じたり、忙しくても現地消費や長期滞在していただけたりとそういった市民の満足度についても経年で分析していく必要がある。なにを指標にするかなど大変難しいとは思いますが重要なことではないかと。

前回委員会でも議論に上がっていたが、この調査結果だけではそれらが読み取れない。

第2期観光振興計画では市民の満足度についてもレベルアップされていくとよい。

委員長：

総合計画策定時などに市民意識や満足度に関する調査は実施されているのか。

事務局：

4年ごとの改定時には調査を実施している。ただ、観光に特化した調査は実施していないので、今後検討の余地はある。

委員長：

今後、それらのアンケート調査の中で観光についての設問も含めていただき、定期的に市民からの評価をもらえれば総合計画と観光振興計画をリンクできるのではないかと思われる。

委員：

宇治は鉄道からのアクセスが非常によい場所である。しかし、駅構内や電車内に貼られたイベントのポスターを見ると単発的な印象を受ける。宇治市にはいろんな観光資源があるので、鉄道利用の観点から見て周遊性の高いイベントを企画できればよいと思う。

ターゲット層が分かりにくいので、しっかりと設定した上でマーケティングしていくとよい。

委員長：

事業の効果的な絞り込みも重要ではないか。

委員：

インバウンド客はキャッシュレス決済がほとんどである。商店街ではどこまで対応されているのか。市と一丸となってキャッシュレス化の構築に取り組むべきではないか。

委員：

金融機関は外貨両替から撤退しつつある。メガバンクだと専門事業者に業務を移行しているところもある。

国内のキャッシュレス決済の状況をみると、交通系ICカードやPayPayなどが一般的になってはきているが、海外は基本的にクレジットカードでのキャッシュレス決済に移行、特にアジア圏では徹底されている。

金融業界ではネットワークによる連携を図りながら、空港で訪日観光客に向けて決済機能のついたSIMカードをお配りするといったような取組などをそれぞれ行っている。

現状、おおよその市内商店ではキャッシュレス決済にも対応できている状況ではないかと思う。決済ツールを統一できるかといえば、意外に思われるかもしれないがかなり難しい。

キャッシュレス決済のインフラ整備については、行政が率先して支援していくことが現

実的な策ではないかと思う。事業者へ参画におけるコストや利用方法についてのサポートをしっかりと行っていくことが重要。

委員長：

商店街のキャッシュレス化の現状はどのようなか。

委員：

PayPay の利用が始まった直後に商店街では合同説明会を開催し、現状かなり定着してきている。大きな混乱もなく徐々にキャッシュレス化してきている。

委員：

全国の多くの自治体ではデジタル地域通貨といったプラットフォームを活用され、飛騨高山の「さるぼぼコイン」は成功事例として挙げられている。

地域でしか流通しない通貨はリピーターの再来にもつながり、地域住民も利用することで地域経済の活性化にも寄与できている。

宇治市は今後、地域通貨の活用は検討される予定はあるのか。

事務局：

現在は地域通貨の取組は実施していない。

一方、プレミアムクーポンの配布はこれまでで3回実施しており、多くの市民に利用していただいている。

委員：

地域通貨はその地域でしか利用できないので、お金が残ってしまったら再度来訪するきっかけとなる。その裏にはマーケティングがあり、利用者の情報を分析した上で旅アトや次回の誘致に向けて情報発信を行うことができる。地域と観光客がつながり続けることのできるツールとして大きなメリットがある。

委員：

どこでどのような人がどのような消費をされたかといったデータは、マーケティングにおける顧客管理として非常に有効である。

観光だけでなく将来の地域経済の活性化についても視野に入れてはどうか。

副委員長：

資料5の7ページに「3 - 4 外国人観光客の誘客強化」に「地域のニーズを踏まえたプロモーション活動」とあるが、行政としては地域のニーズをどのように捉えているのか。

事務局：

観光協会に委託して現状やニーズの把握を行っていただいている。なかなか行政だけでは把握が難しいので、京都府やお茶の京都 DMO や観光協会などと連携して取り組んでいく。

委員長：

USJに来られる観光客と宇治に来られる観光客とではニーズは違う。

日本人がヨーロッパやアメリカへ団体旅行に行き始めた頃も昨今と同じような観光マナーの問題があった。おそらく文化的素養が上がっていけば、観光マナーの問題は軽減されてくるのではないかと。特に京都や宇治は文化的素養を持った人が多く来られるのではないかと思う。

委員：

実現性の高い観光振興計画になることを期待する。

委員より「黄檗ランタンフェスティバル」のお知らせあり。

委員長：

以上を持って本委員会を閉会する。

次回は具体的な内容提示をお願いします。

(6) 今後のスケジュールについて

事務局より資料6の説明

3 . その他

4 . 閉会

事務局：

様々な観点から意見をいただきありがとうございました。

次回委員会では調査の経過や詳細も含めた全体像を提示していきたい。